

# 平成27年度

## 事務事業の点検及び評価報告書

第3回平成27年度事務事業点検評価外部評価委員会資料

平成28年8月23日(火) 10:00~12:00 庁舎3階委員会室

【評価内容】 評価：事業数：( )=平成26年度評価事業数：前年比増減

S	=	3事業	(2)	1
A	=	24事業	(26)	△2
B	=	34事業	(44)	△10
C	=	0事業	(3)	△3
D	=	1事業	(2)	0
合計	=	<u>62事業</u>	(77)	△15

※ 事業数の減少は、事業項目を集約したため。(平成27年度事業数：80事業→62事業)

# 平成 28 年 9 月 恩納村教育委員会

## 1 はじめに

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の執行及び管理状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)：平成 27 年 4 月 1 日改正)

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第 26 条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年作成し公表しておりますが、教育委員会としましては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後に、村民に公表(HP 等)するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋 平成 27 年 4 月 1 日改正

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成 20 年 4 月 1 日施行）

## 2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は 5 名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。教育委員会の代表者であり教育委員会議の主宰者である教育委員長は委員の互選により選出されます。また、教育公務員であり教育委員会事務執行責任者である教育長は教育委員の中から任命されます。教育委員長と教育長は兼任することはできないこととなっています。

通常の業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行います。教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者の中から、村長が議会の同意を得て選任し、その任期は4年となっています。平成27年度は、4月1日付で吉山佳子氏が委員に任命され、6月19日付けで大城肇委員長及び喜久山花菜子委員長職務代理者が再任されました。

平成27年度の教育委員は次のとおりです。

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年数	
委員長	大城 肇	平成25年8月1日～平成29年7月31日	平成13年	2期7年	委員長(平成27年6月19日付)
委員	喜久山花菜子	平成26年10月1日～平成30年9月30日	平成26年	1期2年	委員長職務代理者(平成27年6月19日付)
委員	島袋 正重	平成25年5月1日～平成29年4月30日	平成13年	4期14年	
委員	吉山 佳子	平成27年4月1日～平成31年3月31日	平成27年	1期1年	委員就任(平成27年4月1日付)
教育長	石川 哲夫	平成25年4月1日～平成29年3月31日	平成21年	2期7年	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜臨時会を開催し、必要事項を審議し決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成27年度の教育委員会の会議の開催状況は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
4月定例会	4月21日(火) 10:00	3階委員会室	5人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第1号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 4. その他の協議事項 ・全国学力学習状況調査の公表について(案) ・幼稚園における5歳児問題について ・平成27年度学校計画訪問について ・恩納村文化情報センターオープニングについて ・恩納村アジア圏「文化・交流」体験プログラム派遣事業実施計画(案)について ・営利企業等従事許可申請書の提出について ・恩納村学校給食費徴収条例施行規則(平成27年度議案第63号)の説明について ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則等の整理等に関する規則等(平成27年度)の説明について ・恩納村立幼稚園保育料徴収条例施行規則(平成27年度議案第44号)の説明について ・中学校統合業務の進捗について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
5月定例会	5月19日(火) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第2号 恩納村博物館管理運営規則の一部を改正する規則について</li> <li>4. 議案第3号 恩納村文化財候補について(恩納村文化財保護審議会への諮問)</li> <li>5. 議案第4号 教育長の営利企業等従事許可申請の承認について</li> <li>6. 議案第5号 平成27年度修学旅行の変更届の承認について</li> <li>7. 議案第6号 恩納村学校評議員の委嘱について</li> <li>8. 議案第7号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について</li> <li>9. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査の結果報告について</li> </ul> </li> </ol>
6月定例会	6月19日(金) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第8号 教育委員長の選任について</li> <li>4. 議案第9号 恩納村職員の勸奨退職の承認について</li> <li>5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩屋区からの要請について</li> <li>・学校内における事故対応について</li> <li>・職場体験学習の経過について</li> <li>・児童生徒の不登校について</li> </ul> </li> </ol>
7月臨時会	7月3日(金) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 議案第10号 平成26年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について</li> </ol>
7月定例会	7月21日(火) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 議案第11号 恩納村教育委員会事務事業点検評価外部評価委員会の委員の委嘱について</li> <li>2. 議案第12号 平成28年度使用中学校教科用図書採択について</li> <li>3. 議案第13号 恩納村立幼稚園預かり保育実施要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度学校給食センター決算報告について</li> <li>・村内小中学校の事件事故について</li> </ul> </li> <li>5. その他説明及び報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価委員報告書の説明について</li> <li>・村立幼稚園預かり合同保育について</li> <li>・石川高校活性化説明について</li> </ul> </li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
8月臨時会	8月19日(水)10:00	3階委員会室	5人	1. 平成26年度恩納村教育委員会事務事業点検報告書の確認について(答申):9月定例議会(報告)
8月定例会	8月25日(火)10:00	3階委員会室	5人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第14号 恩納村ハーリー船購入事業補助金交付要綱の制定について 4. 議案第15号 恩納村学校支援地域本部運営委員会委員の委嘱について 5. 議案第16号 恩納村立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 6. その他協議事項 ・村内の児童生徒の問題行動・不登校等について ・全国学力学習調査・標準学力検査について
9月定例会	9月18日(金)10:00	3階委員会室	5人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第17号 恩納村立学校職員に係る教職員評価システム苦情対応要綱の制定について 4. その他の協議事項 ・中学校統合業務の進捗について ・村内児童生徒の問題行動等について ・平成27年度恩納村子ども議会実施要項(案)について
10月定例会	10月19日(月)10:00	3階委員会室	5人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. その他協議事項 ・中学校統合業務の進捗について(スクールバス関連) ・村内児童生徒の問題行動等について ・平成27年度恩納村子ども議会一般質問通告書の内容について ・幼稚園・小中学校運動会への案内について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
11月定例会	11月20日(金)10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認の件</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第18号 恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について</li> <li>4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長の職務専念義務免除について</li> <li>・恩納村教育委員会12月補正予算について</li> <li>・村内児童生徒の問題行動等について</li> <li>・各学校学習発表会出席者割り当てについて</li> </ul> </li> </ol>
12月定例会	12月21日(月)10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議の概要の承認の件</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第19号 恩納村いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について</li> <li>4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・村内児童生徒の問題行動等について</li> </ul> </li> </ol>
1月定例会	1月21日(木)10:00	3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第20号 恩納村教育の日表彰者の承認について</li> <li>4. 議案第21号 平成28年度恩納村立喜瀬武原幼稚園の休園の承認について</li> <li>5. 議案第22号 恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について</li> <li>6. 議案第23号 恩納村いじめ防止等対策委員会設置要綱の制定について</li> <li>7. 議案第24号 恩納村いじめ問題等調査委員会設置要綱の制定について</li> <li>8. 議案第25号 恩納村いじめ防止等連絡協議会設置要綱の制定について</li> <li>9. 議案第26号 万座毛内の沖縄県指定文化財管理計画策定委員会の規程の一部を改正する規程</li> <li>10. 議案第27号 万座毛内の沖縄県指定文化財管理計画策定委員の委嘱について</li> <li>11. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・村内児童生徒の問題行動等について</li> </ul> </li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
2月定例会	2月22日(月)14:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回概要の承認の件</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第28号 恩納村立学校安全対策監視カメラの設置及び運用に関する要綱の制定について</li> <li>4. 議案第29号 恩納村社会教育施設の指定管理者の指定について</li> <li>5. 議案第30号 恩納村博物館運営協議会委員の委嘱について</li> <li>6. 議案第31号 恩納村文化財保護審議会委員の委嘱について</li> <li>7. 議案第32号 県人事委員会勧告に基づく勤務条件改善の要請について</li> <li>8. 議案第33号 平成28年度恩納村一般会計予算(案)に対する意見を村長へ申し出ることについて</li> <li>9. 議案第34号 平成28年度公立学校管理職の定期人事異動内示(案)の承認について</li> <li>10. その他協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・村内児童生徒の問題行動等について</li> </ul> </li> </ol>
2月臨時会	2月29日(月)10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 議案第35号 平成28年度公立学校教諭等の定期人事異動の内示の承認について</li> <li>2. 議案第36号 平成28年度恩納村教育委員会職員に係る人事異動内示(案)の承認について</li> <li>3. 議案第37号 平成28年度恩納村立幼稚園定期人事異動内示(案)の容認について</li> <li>4. その他協議事項</li> </ol>
3月定例会	3月22日(火)10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回概要の承認の件</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第38号 恩納村教育相談員の委嘱について</li> <li>4. 議案第39号 恩納村心の教室相談員の委嘱について</li> <li>5. 議案第40号 平成28年度恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について</li> <li>6. 議案第41号 社会教育委員の委嘱について</li> <li>7. 議案第42号 恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターお委嘱について</li> <li>8. 議案第43号 恩納村社会教育指導員の委嘱について</li> <li>9. 議案第44号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について</li> <li>10. 議案第45号 恩納村博物館非常勤館長の任命について</li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				11. 議案第46号 恩納村文化財保護審議会委員の委嘱について 12. 議案第47号 沖縄県教職員組合女性部からの要請について 13. 議案第48号 平成28年度以降の全国学力学習状況調査への参加について 14. その他協議事項及び報告(説明) ・村内児童生徒の問題行動等について ・平成27年度沖縄県学力到達度調査の結果について ・学習支援員・特別支援教育支援員・ALT・図書館司書・用務員等の配置について ・学校給食センター台風等異常気象時における学校給食の取扱いについて(警報発令時の新設) ・恩納村議会3月定例会一般質問答弁内容の説明について ・山田中学校2年生のいじめ問題について(2月25日総務受付投書文)
【参考】 恩納村総合 教育会議	平成27年5月27日 (水) 10:00	3階会議室	6人	1. 恩納村総合教育会議運営規程(案)について 2. 恩納村教育大綱(案)について
	平成27年10月30日 (金) 10:00	3階会議室	6人	1. 恩納村教育大綱の策定について 2. その他の教育施策及び方針の協議・調整について

なお、教育委員会で審議された案件(議案)を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関係	規則・規定・要綱等	人事・選任・委嘱関係	その他(予算等)	合計
0件	10件	26件	12件	48件

### (3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させています。

平成27年度における村及び教育委員会主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平成27年4月1日	役場1・2階会議室・1階会議室	平成27年度村職員辞令交付式	大城委員長・石川教育長・吉山委員
4月2日	総合保健福祉センター	平成27年度教職員辞令交付式	全教育委員
4月7日	恩納小中学校体育館(中学校)	恩納中学校入学式	石川教育長(告辞)
4月8日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館(小学校) 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	小中学校入学式(恩納校：小学校のみ)	島袋委員(告辞) 大城委員長(告辞) 石川教育長(告辞) 喜久山委員(告辞) 吉山委員(告辞)

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
4月9日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式	吉山委員(告辞) 島袋委員(告辞) 大城委員長(告辞) 石川教育長(告辞) 喜久山委員(告辞)
4月17日	中頭地区市町村教育委員連合会研修	嘉手納町	大城委員長
4月23日	恩納村文化情報センター	恩納村文化情報センター開館記念式典	全委員
4月28日	校務研歓迎会	ムーンビーチ	全委員
5月3日	恩納村文化情報センター	恩納村文化情報センターオープン記念講演会	吉山委員
5月18日	役場2階会議室	村学力向上推進委員会総会	全委員
5月19日	役場・山田小中学校	台湾交流団歓迎式典	全委員
5月27日	役場3階常任委員会室	第1回恩納村教育総合会議	全委員
5月28日	安富祖幼小中学校	学校計画訪問	全委員
5月29日	喜瀬武原幼小中学校	学校計画訪問	全委員
6月2日	恩納幼小中学校	学校計画訪問	全委員
6月3日	仲泊幼小中学校	学校計画訪問	全委員
6月4日	村内(恩納～宇加地)	学力向上推進事業(巡回あいさつ運動)	吉山委員
〃	村内(恩納～名嘉真)	学力向上推進事業(巡回あいさつ運動)	島袋委員
6月10日	山田幼小中学校	学校計画訪問	全委員
6月24日	中学生職場体験学習事業所	職場体験学習事業所激励及びお礼訪問	全委員
6月25日	恩納村慰霊塔	村慰霊祭	全委員
7月3日	役場3階常任委員会室	教育委員会臨時会(事務事業点検評価報告書説明)	全委員
7月29日	ゆうなホール	少年の主張意見発表会	全委員
7月31日	役場2階会議室	給食センター職員退職辞令交付式	全委員
9月9日	ゆうなホール	英語ストーリースピーチコンテスト	全委員
9月13日	赤間運動公園陸上競技場	村中学生陸上競技大会	全委員
9月20日	恩納幼小中学校	運動会	石川教育長
9月27日	仲泊幼小中学校	運動会	大城委員長
10月11日	安富祖幼小中学校 喜瀬武原幼小中学校	運動会	喜久山委員 島袋委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
	山田幼小中学校	運動会	吉山委員
10月14日	恩納幼小中学校	恩納村童話・お話大会	全委員
10月15日	役場2階会議室	未来塾開校式	全委員
10月16日	中頭教育事務所	中頭地区教育委員長研修会	大城委員長
10月18日	赤間多目的運動場	恩納村健康福祉まつり	全委員
10月18日	ゆうなホール	村内3校ジョイントコンサート	全委員
10月18日	ムーンビーチ	石狩市交流会	全委員
10月30日	役場3階常任委員会室	第2回恩納村教育総合会議	全委員
11月29日	山田幼小中学校	学習発表会	吉山委員
11月3日	ゆうなホール	村文化祭(文化協会芸能部門)	全委員
11月15日	仲泊小中学校	学習発表会	大城委員長
11月30日	役場3階議会棟	恩納村子ども議会	全委員
12月1日	仲泊幼小中学校	教科指定研究実践報告会	全委員
12月13日	喜瀬武原幼小中学校	学習発表会	島袋委員
平成28年1月4日	恩納村コミュニティーセンター	恩納村成人式	全委員
1月13日	村内(恩納～宇加地)	村学力向上推進事業あいさつ運動	吉山委員
〃	村内(恩納～名嘉真)	村学力向上推進事業あいさつ運動	島袋委員
1月19日	喜瀬武原公民館	恩納村立中学校統合説明会	全委員
1月20日	安富祖幼小中学校	恩納村立中学校統合説明会	全委員
1月21日	恩納幼小中学校	恩納村立中学校統合説明会	全委員
1月22日	山田幼小中学校	山田小中学校校内研公開授業研究会(パナソニック財団)	全委員
〃	仲泊幼小中学校	恩納村立中学校統合説明会	全委員
1月25日	山田幼小中学校	恩納村立中学校統合説明会	全委員
1月28日	恩納村コミュニティーセンター	恩納村教育の日表衣装式	全委員
1月31日	ゆうなホール	村学力向上実践報告会「学びをたしかめ・つなぐ集い」	全委員
3月3日	役場2階会議室	未来塾閉講式	全委員
3月12日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館	中学校卒業式(喜瀬武原小中学校合同)	吉山委員(告辞) 島袋委員(告辞) 大城委員長(告辞) 石川教育長(告辞)

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
	山田小中学校体育館	中学校卒業式	喜久山委員(告辞)
3月18日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	修了式	喜久山委員(告辞) 石川教育長(告辞) 島袋委員(告辞) 吉山委員(告辞) 大城委員長(告辞)
3月23日	安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小学校体育館	小学校卒業式	吉山委員(告辞) 島袋委員(告辞) 大城委員長(告辞) 石川教育長(告辞)
3月31日	役場2階会議室	役場退職者辞令交付式	大城委員長

(4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。

平成27年度の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
5月14日～15日	沖縄市民会館	沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会	全委員
5月29日	嘉手納町ロータリープラザ	平成27年度中頭地区市町村教育委員会連合会研修会	大城委員長、島袋委員、喜久山委員、吉山委員
7月17日	中頭教育事務所	中頭地区新任教育委員研修会	吉山委員
7月22日	瀬良垣公民館	地域教育懇談会	吉山委員
7月23日	山田幼小中学校	地域教育懇談会	吉山委員
〃	谷茶公民館	地域教育懇談会	大城委員長
〃	太田公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月24日	役場2階会議室	恩納村教育関係者管理職研修	全委員
〃	安富祖公民館	地域教育懇談会	喜久山委員/
〃	恩納公民館	地域教育懇談会	島袋委員
〃	南恩納公民館	地域教育懇談会	石川教育長
7月27日	名嘉真公民館	地域教育懇談会	喜久山委員
平成28年2月5日	嘉手納町ロータリープラザ	平成27年土中頭地区市町村教育委員会連合会講演会	全委員
2月13日	読谷村鳳ホール	中頭地区学力向上推進実践報告会	全委員

### 3 事務の点検評価について

平成 27 年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取り組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の 8 項目とし、事業項目の分類数を検討し、最小限の事業項目数に改めて事業評価シートを作成しております。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取り組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取り組みは 1 年遅れになることがあります。この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、

評価の方法については、次のとおり 5 段階で評価しました。

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成 27 年度の結果は次のとおりです。

#### 事務事業評価シート

##### (1) 学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取り組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育委員会研修事業(宮里)(石川) No.1	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	教育委員の資質の向上及び情報の共有を図るため、村単独の研修会や勉強会の計画を充実させ、実施する必要がある。	定例教育委員会(毎月)の時間を繰り上げて教育委員会単独の勉強会を開催し、情報の共有化及び教育委員会各種事業の研究等を実施した。	教育委員会での勉強会及び研究等を実施したことで情報交換が充実し、児童・生徒へのきめ細かい対応ができた。	子供の貧困関連の対策等が問題視され今後、地域の民生委員等との情報交換を実施し、地域、学校、行政で実情を把握していく。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学校評議員設置事業(宜志富・宮里) No.2	地域の住民の意見を学校経営に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に5名以内の学校評議員を配置する。	各学校の課題について、委員会による集約及び改善についての指導助言が必要である。	各学校において、評議員から頂いた課題対策について、村定例校長会等を通して情報提供してもらい、共通理解を図る。	学校評議員から各学校への意見を校長会等の会議で共有することで、各学校経営の現状を把握し、課題について共有して改善に努めた。	学校評議員設置のための人員確保が難しく、人選に苦労している学校が多い。	B	①現状の内容で継続
校長会・教頭会(宜志富・永川) No.3	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。現場の課題についての情報交換を行い、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	校長会と教頭会が連携を行い、村内幼小中学校が足並みを揃えて学校経営を推進する視点が弱い。	校長会に先立って学習会を30分設定し、共通理解を図り、情報交換とともに課題解決を図る。	校務研学習会を実施したことにより、情報理解及び行動連携がはかれるようになった。	教頭会での学習会を実施することができなかつたので、次年度校長会同様に開催できるようにする。	B	①現状の内容で継続
教育相談事業(石川) No.4	配慮を要する幼児児童生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。	恩納村いじめ防止基本方針に沿って外部(児童生徒・保護者等)からの連絡体制や関係機関へのアプローチ及び環境の整備を整える。 相談電話の新設及び不在時(土日祝祭日等)の転送ダイヤルの相談環境の整備等(いじめ、自殺等)	相談用電話の新設を行い、教育相談員の派遣型を実施し、学校等への派遣を行い、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等とのきめ細かな連携を図った。	相談用電話を設置したことで直通及び代理応答が可能となり、外部からの相談等をスムーズに行うことができた。また、学校への派遣(学校要請)を行うことによって迅速に不登校等の課題を抱えた児童生徒に迅速に対応することができた。	相談用電話の土日祝祭日等の対応を今後、検討(県、NPO等との連携)し、子どもたちからの緊急電話等の対応を構築すること。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取り組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育委員会学校計画訪問(宜志富) No.5	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	管理運営に関してはほぼ改善が図られた。今後は教育施策の充実を図る。	学校での教育活動を年間を通して支援するために、指導主事による支援訪問を実施する。	指導主事による年間を通じた学校支援訪問の実施により、各学校の学校運営が充実してきた。	学校経営の具現化を確認するために、学校評価をマネジメントサイクルで報告する体制を図る。	B	①現状の内容で継続
子ども議会(宜志富・石川・永川) No.6	村内並びに各中学校における課題等を議会議員として質問することにより、生徒の問題解決能力及び発表力、表現力を育成する。	議会答弁「子ども議会への取り組み」について、行事の精選からリーダー研修会を廃止し、子ども議会を立ち上げる。	恩納村子ども議会への問題提起、及び課題解決について議論を行い、解決策を練り上げる事で生徒の問題解決能力及び発表力、表現力を育成する。	各中学校の代表としてしっかりと議論できたと同時に学校のリーダーとしての意識を高めることができた。また、自校の課題への解決策を明確にすることができた。 沖縄県子ども議会への代表も輩出し、将来の人材づくりへの位置づけとした。 (山田中学校2年:1名)	各学校の全生徒の問題解決能力を育成する観点から、次年度は生徒会リーダー研修会を復活させる。 子ども議会は、記念事業として開催しているので、次回開催は村政110周年(平成30年度)開催で検討する。	A	③ 事業の廃止
奨学資金貸与事業(喜久山) No.7	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	経済的理由による進学の見込みがないように申込者全員へ貸与できるように対応していくことと併せて申込時の提出書類の簡素化を検討していきたい。 長期間未納者に対しては状況に応じた納付方法を促していきたい	貸与については、申込者全員に貸与ができた。収納事務については、催告書等を送付し納付を促し、長期滞納者への電話催告を行いました。	奨学金申込者全員に対し貸与を行うことができた。(県内16名・県外8名)貸与額は8,160千円で徴収額は13,235千円、寄付金1,300千円で収入合計は、14,535千円となり6,375千円の収入増となりました。	近年申込者全員へ貸与が行われていることから、提出書類の簡素化や給付型奨学金制度の検討を行いたい。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
職場体験学習事業 (永川)  No.8	村内5校の中学2年生を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	一部の生徒ではあるが、全く希望外の事業所に決まった生徒、また快く受入の回答をしたのに希望する生徒がいない事業所などが多々あり、事業所の受入と生徒の希望調査の方法や手順に改善が必要である。	生徒の希望調査を先に行い、その結果を集約し、各事業所に依頼を行った。	ほとんどの生徒が希望している事業所で職場体験学習に取り組むことができた。また、事業所からの苦情等もなく、礼儀正しく熱心に取り組んでいたというお褒めの言葉が多くあった。	ケーオーパートナーズや関係機関の資源を活用し、キャリア教育の充実を図り、職場体験学習の更なる充実を図る。	B	①現状の内容で継続
幼稚園教諭研修会 (宜志富)  No.9	村内5幼稚園教諭の資質の向上を図る。幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	幼稚園教諭を対象とした村主催の研修会の実施が不十分である。	毎月の定例会を計画・実施し、情報共有及び行動連携に努める。	研修会を定例化することにより、幼稚園運営及び意見交換が充実し、各園の課題の改善が図られた。	定例の研修会において、専門の講師を招へいし講話等を通して幼稚園教諭の資質向上を図る必要がある。	B	①現状の内容で継続
幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業(喜久山) No.10	幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。	各幼稚園のスペースを考慮し最適な遊具の種類を選択する。	補助事業を活用した遊具整備の計画がたてられた。	喜瀬武原を除く各幼稚園で預かり保育を実施したことで、預かり保育に必要な備品の整備を行った。	各幼稚園のスペースを考慮し最適な遊具の種類を選択し整備を図る。	A	①現状の内容で継続
幼稚園教育の推進 (宜志富)  No.11	幼稚園の自然環境・人的環境を生かした特色ある保育活動を実施する。	幼児教育振興計画に沿った事業の展開。	年間計画に沿った幼児期養育事業の展開。	自然環境・人的環境を活かした特色ある保育活動が実施されてきている。	各園での特色ある保育活動を村内全園で情報共有する必要がある。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育振興備品整備事業(喜久山) No.12	学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。	ICT教育機器が整備されていない仲泊校において一括交付金を活用したICT教育機器の整備を図る	ICT教育機器が未整備だった仲泊校を一括交付金を活用し備品購入した。全小学校へデジタル教科書を整備した。	ICT(情報通信技術)教育、電子黒板、タブレット型端末等を用いた教育(デジタル教材等を使用)でよりわかりやすい授業の構築が可能となった。	より活用頻度の高いデジタル教材やアプリ等を整備し、ICT教育機器をより効果的に使う。	A	①現状の内容で継続
就学支援事業(松崎) No.13	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に支援を要する児童生徒の教育の充実を図る。	提出書類の簡素化を検討したい。配布文書の明瞭化。引き続きSSW・学校事務職員と連携し、経済的支援を進めていきたい。	配布文書の明瞭化に関しては、給食費やめがね購入券に関し注意事項を追加。SSW・学校事務職員と連携し、支援が必要な家庭には声掛けを行った。	年度途中の申請も多々あり、経済的援助が必要な家庭の児童生徒への支援を行うことが出来たが、申請方法や周知に関しては今後の課題もみつかる。	申請が遅れる家庭もある為、周知方法等を検討する。引き続きSSW・学校事務職員と連携をとり、経済的支援を進めていく。	B	①現状の内容で継続
心の教室相談員配置事業(宜志富) No.14	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活を営むことができる学校環境を整備する。	学校間格差があり、心の教室相談員活用への工夫が必要である。	心の教室相談員研修会で情報交換を行うと同時に未然防止や児童生徒の抱える課題についての解決事例を紹介させる。	心の教室支援員同士による事例紹介および研究により、相談員の資質能力が高まりつつある。	年々、相談員の人員確保が厳しくなっている。相談員の報酬等も含め、見直しが必要である。	B	①現状の内容で継続
教育の情報化コーディネート(喜久山) No.15	恩納村立幼稚園・小中学校における学校ICT環境整備に対する提案とその効果的な活用、情報化による授業改善や児童生徒への直接指導、テレビ電話システムを活用、リスクマネジメント、情報機	仲泊校のICT教育機器整備に向けた機器の選択。整備された機器の活用方法を含めた児童生徒、先生に対する教育の情報化推進のための指導及び協力体制構築。	仲泊校へのICT教育機器整備について、これまでの学校への機種選定を参考に、先生方の要望を調査し、費用対効果を考慮しながら機器を選定した。	ICT教育機器の有効活用するための研修等を行い、よりわかりやすい授業の構築が図られた。 各学校における情報教育機器のトラブルや新規導入に対し、専門的知見を生かして対応した。	校務用PCのセキュリティ強化のための方策を検討し、専門的知識を生かし、学校の担当と情報を交換しながら校務支援ソフトの選定を行う	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
	器を活用した情報公開・広報等について専門的知見から教育の情報化を推進するために派遣する。						
学習支援員配置事業(宜志富・喜久山) No.16	学校教育の課題である児童生徒の学力向上に資するため、各学校へ学習支援員を配置し、算数・数学を中心としたきめ細かな指導を実施する。	学習支援員の継続的配置と新規雇用者に対するスキルアップ研修の開催。	学習支援員スキルアップを図るために、各配置校においても学力向上推進教諭との情報連携及び校内研修の充実を図る。	各配置校における活用年間計画の作成及び実施を通して、支援員のスキルアップが図られつつある。	学習支援に関する支援員のスキルアップを更に図るため、村主催による研修会の回数を増やしていく必要がある。	B	①現状の内容で継続
特別支援員配置事業(宜志富・喜久山) No.17	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	配慮を要する児童生徒の増加に伴う支援員の拡充。	各校の現状を把握し、的確な人員を配置した。 安富祖校 1 名 山田校 1 名 仲泊校 1 名 恩納校 1 名を増員した。	支援を要する児童生徒に十分対応できる配置ができた。	児童生徒の個々のニーズにあった、支援を行い、新規の支援学級設置を検討する。	A	②事業を拡大して継続
英語指導助手派遣事業 (ALT) (宜志富・喜久山) No.18	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	安富祖小・喜瀬武原小でのネイティブの活用を図る。	他校での実践事例を共有させ、効果的に児童生徒の外国語能力の向上を図る。	村内 5 校で同レベルの英語教育が推進できている。	小学校英語特例校を現在の恩納小に加え他の 4 校も申請する必要がある。	B	②事業を拡大して継続
対外競技派遣及び中学校部活動支援事業 (喜久山) No.19	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	今後も継続して各部活動の充実を図るため県外等派遣に関する費用の確保に努める。	各学校での部活動が充実し、県内外での大会への派遣費用等の予算確保に努めた。	バドミントン、空手、ものづくり教育フェア等県内外への派遣に対し、旅費等を補助することで経済的な負担を軽減すると共に、県外等で競技することにより選手としての視野を広げた。	今後も継続して各部活動の充実を図るため県外等派遣に関する費用の確保に努める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
	中学校の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	各学校部活動の更なる発展を推進するため継続的な部活動予算を確保する。	文化的・体育的活動の充実を図るため部活動消耗品等の部活動予算の確保に努めた。	各学校への部活動予算の配分を行い、部活動消耗品等の充実が図られた。	各学校の部活動が支障なく活動できるよう消耗品等の予算確保に努める。		
知能検査 標準学力検査事業 (永川) No.20	児童生徒の学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	学力面だけでなく情緒面においても生徒の実態をより正確に把握する為、さらなる調査が必要である。(ハイパーQUテスト等)	新規で hyper-QU テストを実施する。	新規で hyper-QU テストを年間2回(6月、10月)実施し、生徒の情緒面や学級の状況等の実態把握につながった。	各学校単位で、活用説明会の講師依頼を行い、hyper-QU テストの活用の充実を図る必要がある。	B	①現状の内容で継続
指定研究事業 (宜志富) No.21	特色ある学校づくり及び学力の向上を目指し、教科・領域指定及び皆泳指定研究をする。	教科領域指定研究校として新たに指定される恩納校の研究内容に対する支援。	前年度発表校の仲泊校の資料を提供し、学校課題の解決を目指す研究の実践を支援した。	恩納校の研究テーマが学校課題解決を反映したものとなり、学校がチームとして運営されてきている。	2年目の最終報告の作成に向け、他校への良き実践事例になるように、支援をしていく必要がある。	B	①現状の内容で継続
小中学校施設整備事業 (大城) No.22	適切な学校の施設整備を行なうことによるよりよい教育環境の確保	プールの老朽化による事業採択の検討。	公立学校施設整備事業長期計画を作成し、県と調整を行った。	公立学校施設整備事業長期計画ヒヤリングにおいて、県と事業計画の調整を行った。	恩納校プール改築予定年度において実施できるように関係機関及び関係課との調整を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
キャンプ・ハンセン関連再編関連特別事業（大城）  No.23	生徒等が安心・安全に教育を受ける事が出来る環境整備	社会情勢をふまえ、「学校」という施設の安全性をより向上させることが必要。	校内の出入口及び外部から侵入しやすい箇所等へ安全対策監視カメラ及びモニターを設置した。	侵入者による未然の犯罪防止及び抑止、生徒等の校内事故等の検証記録の確認及び事件事故の早期解決が可能になった。	安全確保を図る為に、教職員の指示系統等を学校経営計画に反映させ周知を図る。	A	③事業の完了
学校施設維持管理事業(大城)  No.24	適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことによるよりよい教育環境の確保	施設の老朽化が進んでいるので、施設修繕を検討する。	緊急性及び優先順位を考慮して事業を実施した。	仲泊校体育館雨漏りの修繕、喜瀬武原校和式トイレの一部を洋式トイレに修繕等を実施した。	施設の老朽化が一部進んでおり、中学校統合を考慮して施設修繕等を実施しながら、施設の長寿命化を図る。	B	①現状の内容で継続
恩納村立中学校適正規模推進事業（恩納村教育振興審議会答申）（石川）  No.25	少子高齢化に伴い、幼小中学校の児童生徒の減少化は進み、殆どの中学校で学年1学級又は複式学級となっており、今後もこの傾向は続くことが予測され幼小中学校の適正規模推進計画を策定し、中学校統合に向けた事務事業を実施する。	統合中学校建設候補地選定調査報告書の完了後、候補地選定委員会での統合中学校建設候補地選定調査報告書の最終確認及び教育委員会への提言を行い、平成27年9月以降に各校区毎の説明会を実施する。	中学校統合地域説明会を実施し、住民及び保護者等より中学校統合に向けた意見や希望等の聴取を行った。  【地域説明会開催日・参加者数】 喜瀬武原校区：H28・1/19(21名) 安富祖校区：H28・1/20(31名) 恩納校区：H28・1/21(54名) 仲泊校区：H28・1/22(31名) 山田校区：H28・1/25(47名)	中学校統合に向けての大きな課題であった地域説明会の実施が完了し、概ね地域及び保護者等の理解が得られた。  また、候補地選定に時間を要したものの地域説明会において大きな混乱もなく実施できた。	平成28年度より、本格的に測量や基本設計等の予算を要する業務が生じるため議会への予算説明及び教育委員会並びに総合教育会議での協議・調整を図り、平成32年4月開校に向けた取り組みを計画通り実施していく。	A	①現状の内容で継続

(2) 社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
青少年団体等活動助成事業 (4団体) (紀彦)  No.1	青少年団体等が実施する活動を支援し、体験活動等をとおして、健全な青少年の育成を図る。	引き続き各種団体への周知を行う。	前年度同様、子ども会及び読み聞かせボランティア団体、少年スポーツ団体等への周知を行った。	各団体への助成を行った。 ・社会教育団体 2団体 ・放課後子どもクラブ 1団体 ・スポーツ団体 1団体	幅広く社会教育団体及び各種ボランティア団体等へ事業の周知を行う必要がある。	A	①現状の内容で継続
国際交流派遣事業(紀彦)  No.2	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。  (アメリカホームステイ：中高校生対象：5名、但し、応募が少ない場合には大学生の応募も対象可)  (アジア圏内[台湾]交流事業：総勢15名①村立小中学校児童生徒10名②引率者5名)	アメリカホームステイについては、広報誌、教育委員会関係行事予定表等を活用し募集しているが応募が少ない。  アジア圏内交流事業については、派遣先での授業体験、文化交流等のタイムスケジュールが過密だった為、児童生徒の負担(体力的に)が大きかった。負担軽減にむけてスケジュールの再検討。	アメリカホームステイについては、村防災無線や村広報誌等を活用し募集案内を実施し、応募基準や審査方法の改善を行った。  アジア圏内交流事業については、タイムスケジュールの再検討や、日誌等の見直しを行い、児童生徒の負担の軽減を図った。	アメリカホームステイについては、前年度応募9名に対し、応募者が10名と1名増となった。 今年度より被派遣者数を前年度5名から3名へ縮小した。 被派遣者実績 高校生：2名 中学生：1名  アジア圏内交流事業については、本年度も引き続き、事前研修会を実施したことで、派遣先での授業体験、文化交流事業を円滑に行うことが出来た。また、事後研修も実施し、事後報告会、学推実践発表大会において、スムーズな発表が行えた。	アメリカホームステイについては、派遣人数の割に毎年応募者が少ない。周知案内拡大等を検討する必要がある。  アジア圏内交流事業については、派遣先での授業体験、文化交流のみの内容となっている。グローバルな視点の育成を図るうえで、視察等も組み込む必要がある。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業(紀彦)  No.3	自然生活体験で自然にふれあうことにより、自然に親しみ、仲間と協力することをおして社会生を身につけ、また、生活に必要な基礎的スキルを身につけ、自立を促し健康で心豊かな青少年の育成を図る。	今後も参加する児童生徒や各字子ども会へ連携事業の重要性の説明を継続し、意識改善を図る。また、昨年度の課題にあげた「火おこし器」の活用が出来なかったことから、子ども会ジュニアリーダー兼主事でも活用できるように、事前購入する必要がある。	「火おこし器」を事前購入し、ジュニアリーダー研修会やサバイバル事前研修において活用し、実際に火をおこすことが出来た。 また、研修会等で引き続き勤労体験学習(稲蒔き、田植え、稲刈り)が連携事業であること、食育も兼ねていることの説明の機会を設けた。	ほとんどの参加者が田植え、稲刈り両方参加した児童だった。勤労体験学習との連携事業との認識が浸透している。その上で食育にもつながる事業となった。 また事前研修を各関係機関連携し、安全管理を行い大きな事故もなく事業を実施することができた。 参加実績 6年生：38名 ジュニアリーダー：20名	火おこし器を活用することが出来なかった。事業を通じてジュニアリーダー参加者の育成に繋げる事業と位置づけているが、参加者に片寄りがある。今後はバランスよく参加者を募り、リーダーの育成に繋げる必要がある。	A	①現状の内容で継続
成人式事業(紀彦)  No.4	新成人の新たな門出を激励すると共に、社会を構成する成人としての自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図るため、式典及び交流会を実施する。	祝賀会については、実行委員会にて企画・実施ができるようになってきたが、該当者の問題行動や出席に相応しくない服装等での参加が目立つ。該当者の意識改善を図るため、各校区の該当者代表、各字青年会代表を交えた、意見交換会等の機会を設ける必要がある。	村青年団協議会と連携し早めの実行委員会募集を進め、実行委員会に新成人の誓い、祝賀会の企画、実施をすることができた。 問題行動については、その疑いがある新成人を式典会場への立入を禁止する厳しい措置を検討。	式典において、文化協会、合唱部のメンバーによる村歌、新成人に送る歌を斉唱して頂いた。 また、村青年団協議会を通して実行委員会を募集し、実行委員自ら作成した校区毎のビデオアルバム上映や、村内企業の協力(記念品)によるレク等を実施した。 心配された問題行動等も無く、事業が実施できた。 成人式祝賀会実行委員：8名 新成人該当者：135名 成人式参加者：108名	今回の式典では問題行動等は無かったが、今後発生した場合の対応等式典・祝賀会の内容について検討を継続する必要がある。 また、引き続き祝賀会を実施していくのであれば、実行委員会主体による事業企画・運営を図る為の組織作りを検討する必要がある。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
社会教育教室 (うんな大学) (全10回) (紀彦)  No.5	本村の教育資源・人材を最大限に活用して学習することで、村民の生涯学習意欲の意識向上の機会とする。 また、本講座での学習成果を学校地域支援事業へ繋げ、本村における教育資源の素晴らしさの再発見とボランティア活動における人材育成を図ることを目的とする。	講座内容や開催日時、受講対象者の検討を行い、事業の周知徹底を図り、受講者の増加を図る。 女性教室で好評であった「初心者の英会話教室」を女性以外も対象に加え、開設に向けて取り組む。	今年度は、前半、後半に分けて講座を実施。 前半は、これまで受け継がれてきた「しまくとぅば」の重要性、大切さを再認識させ、次世代への継承を目指す。 後半は、多様化する生涯学習ニーズに対応するため、様々な視点から講座を実施し、今後の生涯学習への意欲向上を図り生涯教育資源の発掘を目指した。	○しまくとぅば教室 全5回 延べ37名(男1名) 村文化協会と、タイアップし実施。受講生からの代表で、生涯学習成果発表会で発表を予定していたが、一身上の都合により辞退となった。 ○生涯学習発掘教室 全5回 延べ57名 全5回、4教室を実施、その中でアンガーマネジメント教室の希望があった。	対象者を村内在住、在職、在学者としている。 次年度も引き続き対象者のニーズにあった講座設定や、習得した技術を今後活かすためのシステム(サークルや、クラブ結成等)を形成する。	B	①現状の内容で継続
いきいき女性教室 (全5回) (紀彦)  No.6	学習機会を通して資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。 併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習啓発の場とする教室を開催する。	継続してニーズの把握、受講者の増加、女性層の学習意欲の向上を図る。	女性層のニーズにあった講座の選定や、今後の講座設定に繋げるため、他市町村から情報収集し、多種多様な講座を設定した。	○貯金講座 全1回 9名  ○もの作り体験「革細工」全2回 延べ39名  ○リフレッシュ体操 全2回 延べ8名	対象者を村内在住、在職、在学者としている。 次年度も引き続き対象者のニーズにあった講座設定や、習得した技術を今後活かすためのシステム(サークルやクラブ結成)を形成する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
地域リーダー研修 (全1回) (紀彦)  No.7	組織づくり支援・地域交流活性化支援・リーダー人材育成支援・就業意識向上支援 ※前年度実施した人材育成研修から名称変更	○次年度においても、引き続き成人式を考える機会として研修を実施する。 ○今後は、青年層だけに偏らず、子ども会や婦人会、青少年の健全育成に携わる団体も対象に加え、実施に向けて取り組む必要がある。	今年度は、PTAとタイアップし事業を実施。 次年度以降も社会教育団体等と協力して、地域リーダー育成に取り組む。	各校PTA会員及び役員を中心に実施 ○アンガーマネジメント講習 受講者23名	各種社会教育団体及び関係機関と連携し、地域リーダー育成を進める必要がある。	B	①現状の内容で継続
楽しく子育て教室 (全6回) (紀彦)  No.8	子育てに必要な生活習慣の大切さを学び、家庭教育の基礎づくり・仲間づくり・親子のふれ合いや絆を深める場とし、子育てに悩んでいる受講生間の交流の場とする。	今後も、開設場所、送迎等を継続して検討する。 また、社会教育講座で実施した「家なれー運動」のプログラム活用、生活リズムに関する教室の開催、福祉健康課とのタイアップ事業として、乳幼児検診時のベビーマッサージ講座の実施を検討する。	福祉健康課、子育て支援センター、村内保育所と連携して事業を実施し、事業周知に関しても、関係団体及び村広報誌を活用し、教室の開催周知を行った。	今年度は、一部事業を福祉健康課の乳児健診とタイアップし実施した。 ○ベビーマッサージ ※タイアップ事業 3回講座：延べ55名（乳幼児含む）参加  ○子育て勉強会 2回講座：延べ23名  ○親子でクッキング 1回講座：11名	子育て支援センター利用者に限らず、家庭における保育者等へ情報交換、仲間作り、居場所づくりの手助けが必要であり、関係団体等ともタイアップし、それら対象者への周知を図る。土曜日、日曜日、あるいは夜間の実施に向けて検討を要する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
ボランティア養成講座 (全5回) (紀彦)  No.9	ボランティア活動で地域に寄与している方々を対象に活動に必要な資質の向上を図ると共に相互の交流を図る機会とする。	読み聞かせスキルアップ講座については、サークル団体のスキルアップが図られた。 次年度は、学校・家庭・地域支援ボランティア事業等のボランティア養成に繋がる補助的事業を検討する。	これまで行ってきたボランティア養成講座を見直し、ボランティアに対する考えや、基礎的知識を学ぶことにより、複雑化、多様化した社会生活の中で、どのように地域活動や社会に関わっていきけるのかを目的に取り組んだ。	今回、身近にあるボランティアとして、精神障害、学校支援、認知症等に係る様々な内容で5回の講座を行った。 ○ボランティアって何 ○コミュニケーション能力up ○学校支援 ○認知症の基礎知識 ○精神疾患の基礎知識 全5回：延べ32名	多様化するボランティア活動の中で、どのようなボランティアを養成するのか、限られた講座回数の中で、どれだけ既存のボランティア団体、サークル等へつなげる為の講座設定、新しいボランティアへのヒントとなる講座の設定を目指す必要がある。	A	①現状の内容で継続 (養成が必要なボランティアへ対象変更)
公民館講座 (6講座開設) (紀彦)  No.10	多様化、高度化する学習ニーズに対応するため、各字公民館の協力を得て、地域住民に対して学習機会を提供するとともに、地域における指導者の養成を図る。	今後も公民館を中心としたコミュニティ形成支援、地域のよりどころとしての公民館活用の増加につながるよう、各種団体や各区長へ講座の開設周知を継続して行う必要がある。 活動実績の資料を活用した広報活動による周知を図る。	これまでの活動実績を活用し広報、周知を行った。 公民館活用へ繋げるため、村生涯学習成果発表会への展示や、舞台発表をとおして、サークル化への助言をした。	○南恩納公民館講座 自然の素材を生かした体験講座(石けん、料理、染め物等) 全10回：延べ85名 ○仲泊公民館講座 ビーズ細工 全10回：延べ170名 ○谷茶公民館講座 フラダンス教室 全10回：延べ104名 ※現在もサークルとして継続中 ○富着公民館講座 レザークラフト教室 全10回：延べ114名	各種講座の情報提供や、村主催の生涯学習講座の情報提供など、今後も公民館を中心としたコミュニティ形成支援、地域のよりどころとしての公民館活用の増加につながるよう、周知を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
				○大田公民館講座 ブリザードフラワー教室料 理教室 操体法教室 全5回：延べ61名  ○恩納公民館講座 ビーズ細工 全5回：延べ57名			
青少年劇場小公演事業(親泊)  No.11	優れた芸術を直に鑑賞し、感動と喜びを与えることを目的とする。県文化財課からの受託事業。	・県文化財課からの周知以前に学校への調整を行い、事業の周知を徹底するよう努める。	事業実施のため県文化財課との調整を行った	県文化財課の方針により、離島地域及び未実施校への優先的実施となり、継続して実施している恩納村は実施できなかった。	継続の実施が困難となり、事業の検討が必要	D	③事業の廃止

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
人材育成激励金 支給事業(大)  No.12	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	周知活動の継続、また必要に応じて他事業との連携を図る。	○激励金受給対象者の把握、各字等へ事業周知を行った。	スポーツ競技は 40 件の支給があった。 ○スポーツ面 ソフトボール 学生：6 件、一般：15 件 バドミントン 学生：8 件、一般：0 件 陸上、駅伝 学生：2 件、一般：0 件 バレー 学生：2 件、一般：2 件 ラグビー 学生：3 件、一般：0 件 カヌー 学生：1 件、一般：0 件 水泳 学生：1 件、一般：0 件 ○文化面 吹奏楽 学生：0 件、一般 8 件 書道 学生：1 件、一般 0 件 文化面は 9 件の支給があった。	周知活動の継続、また必要に応じて他事業との連携を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種団体への活動支援  No.13	社会教育分野で活動する各種団体に対し補助金を交付し、その活動を支援することにより社会教育活動の振興を図る。	各種団体の年間活動を把握し、適正な補助金の交付を図る。	各種団体の総会や事業へ参加し、年間の事業活動の把握に努めた。	<p>青少年の健全育成をはじめ、村内で活動する団体へ補助金を交付すること、並びに団体の主催する事業に参加・協力することにより事業活動を把握し、支援することができた。</p> <p>○青少年健全育成協議会 3,284,000 円</p> <p>○子ども会育成連絡協議会 1,910,000 円</p> <p>○PTA連合会 1,585,000 円</p> <p>○婦人会 1,045,000 円</p> <p>○青年団協議会 443,000 円</p> <p>○文化協会 1,894,000 円</p>	各種団体の事業活動の把握に努めるとともに、連携し社会教育活動の推進体制の構築を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
文化情報センター業務  No.14	文化情報センターの開館と開館後の必要な事務を行うと共に、住民に対し、図書や資料を通じて情報提供サービスに取り組み、読書活動を推進し村内外の様々な情報を提供する。	文化情報センターの開館に向け、円滑な事務を図ると共にシステムを活用し、文化情報センターでの図書貸出サービスを始める。 ・運営協議会を開催する	図書の特集や講座やイベント等でセンターの周知を図った	オープニングセレモニーを円滑に終了できた。  ・石狩市民図書館と友好図書館締結を結んだ  ・入館者数 68, 684 人 貸出人数 21, 696 人 貸出冊数 68, 902 冊 登録人数 3, 392 人 蔵書冊数 38, 499 冊  ・本の特集 「青い海は美しい」他 119テーマ ・企画イベント 「サンセットウィーク」 「屋外天体観測」他 7回実施 ・人形劇 コントス 287人参加 かじまやあ 134人参加 ・又吉直樹講演会 約450人参加  ・おはなし会の定期的な開催 毎週土曜日実施 47回 合計623人参加	友好図書館との定期的な情報交換  ・適切な蔵書管理に取り組む  ・継続的な読書活動の推進に努める  ・活動計画の周知と推進  ・本やセンターへの関心を高めるイベントや図書の特集を継続的に行う  ・遠隔地域の利用者拡大	S	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会を開催しセンターの円滑な運営に取り組んだ</li> <li>・沖縄関連資料の充実に取り組んだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報センター運営協議会を設置し、会議を2回実施した。博物館はもとより、なかゆくい市場との連携によりイベントなどが充実した。 クイズラリー イベントの告知等</li> <li>・沖縄振興特別推進交付金を活用し、沖縄関連の資料を購入した 図書資料 1,836点 視聴覚資料 185点</li> </ul>	と利便性の向上		
子どもの読書活動推進計画の策定 No.15	「子供の読書活動の推進に関する法律」に基づき、本村の子供の読書活動推進のための取り組みについての方向性や施策を示すため計画を策定する	計画の策定に向け、継続して取り組む	・子どもの読書活動推進計画の策定委員会を3回実施した	3月に「子どもの読書活動推進計画」を策定した	推進計画の啓発を図り子どもの読書活動を促進する	A	③事業の完了

(3) 社会体育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実 (体力テスト) No.1-1	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	他機関と連携しながら、スポーツ推進事業を実施できるよう連携して展開していく。	福祉健康課等と連携し、体力テスト以外の事業も実施できないか調整を行った。	健康福祉まつりで体力テスト、ニュースポーツ体験を実施し、健康増進の意識高揚につながった。 体力テスト 参加者：39名  ラダーゲッター 60名	福祉健康課及び学校と連携しながら、スポーツ推進事業を実施できるよう連携して展開していく。	B	①現状の内容で継続
(スポーツ教室) (大) No.1-2	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	アンケート結果を教室実施に反映させ、村民の参加しやすい教室を実施する。	夜間に教室を開催し、「ヨガ&ピラティス教室」を南部地区10回、北部地区で11回開催した。また、参加者からの要望や教室の実施方法等のアンケートを行った。	参加者の健康増進への意識高揚につながった。  北部地区：87名(73) 南部地区：71名(75)	アンケート結果を教室実施に反映させ、村民の参加しやすい教室を実施する。 期間を短縮して集中型の教室とする。		
(壮年バレーボール) (大) No.1-3	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	事業継続し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	スポーツ推進委員定例会での大会調整、年間日程表による周知活動を行った。	9チームの参加があった。また参加チームに大会運営協力(審判員)をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。  申込チーム：10チーム(9)	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
(壮年ソフトボール) (大) No.1-4				参加チームに大会運営協力をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。  参加チーム：17チーム (18)	事業継続し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。		
(ミニバレー) (大) No.1-5	ミニバレーを通してスポーツ技術の向上を図り、健康増進の意識高揚、村民の親睦を深める。	ソフトバレー大会と類似する部分があるので、事業精査する必要がある。	ソフトバレー大会を廃止にし、ミニバレー大会に新しいクラスを設け、実施した。	他事業と重なり、参加チームが少なかったため、大会中止となった。	年間日程表にも大会日程を掲載し、周知活動に力を入れる。また、総合型スポーツクラブと連携し、大会を運営する。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
スポーツ推進委員の資質向上 (大) No.2	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、スポーツ推進委員個々の資質の向上を促す。	委嘱年数の若い委員への研修会参加への呼びかけ、またスポーツ推進委員がいない字は協力して適任の人材を探し、定員を満たすようにする。	県や中頭地区での研修へ積極的に参加した。 また、村で行われる大会やイベント等に繋がる研修を自ら企画し実施することで、個々のスポーツ推進委員の資質向上につながった。	様々な事業でスポーツ推進委員が中心になって大会運営ができています。  スポーツ推進委員活動数 H27：324 H26：298人	委嘱年数の若い委員への呼びかけ、またスポーツ推進委員がいない字は協力して適任の人材を探し、定員を満たすようにする。	B	①現状の内容で継続
恩納村体育協会、国頭郡体育協会の活動支援 (大) No.3	恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付し、その活動を支援することによりスポーツの振興を図る。	体協主催の事業展開、体育施設の利用等の指導・助言を行う。	スポーツ振興、競技力向上に繋がるような事業展開の提案、施設の有効活用等の指導助言を行った。	今回は新たな事業展開はなかったが、駅伝、バドミントン、卓球、ソフトボールなどで優秀な成績を収めた。また、社会体育施設の年間を通しての活用が見られた。	体協主催の事業展開、体育施設の利用等の指導・助言を行う。	B	①現状の内容で継続
村立小中学校体育施設（プール）の一般開放事業 (大) No.4	夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。	開放期間中の水泳教室は今後も継続していきたい。	プール開放時に水泳教室を開催した。	教室実施数及び参加者 仲泊校 3回（53名）  夏休みプール開放事業 利用延人数 1,231（1,052） 安富祖：232（150） 喜瀬武原：190（181） 恩納：319（283） 仲泊：321（287） 山田：169（151）	開放期間中の水泳教室は今後も継続していきたい。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種団体等県外派遣補助事業(大) No.5	村民のスポーツや文化活動に対する意欲を向上させ、各種スポーツ及び文化的活動の振興を図る。	事業を継続し、該当する団体・個人等の情報収集、広報誌等の活用、周知に努める。	派遣事業に該当する団体の情報収集、広報誌等の活用、字への情報提供、周知徹底に努める。	○小中学生 空手 2件(個人) バドミントン 1件 陸上 1件(個人) ゴルフ 1件(個人) ○一般 ソフトボール 1件	事業を継続し、該当する団体、個人等の情報収集、広報誌の活用、周知徹底に努める。	B	①現状の内容で継続
村体育施設維持管理事業(大) No.6	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営、周知活動を行っていきけるよう指定管理側と連携する。	施設利用率向上に向けての施設維持管理徹底の指導を行った。 また、定期的に調整会議を行い、問題点解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理側との意思疎通を図った。	施設維持管理については、利用者からも好評で利用数も高い水準を維持している H27 利用者 91,910 利用回数 (1,933) H26 利用者 92,158 利用回数 (1,788) ○自主事業 ・サッカー教室(通年)	施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営、周知活動を行っていきけるよう指定管理側と連携する。	A	①現状の内容で継続

(4) 学力向上推進委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学力向上推進事業 地域学習塾支援 (宜志富・宮里) No.1-1	学力向上推進委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら心・知・体の三拍子揃った子どもの育成を図る。	各支部とも工夫した取り組みが見られるが、情報の共有が充分ではないため、横の連携を図る。	各支部の活動事例を共有し、運営課題の解決を図った。	各支部ともに、各区の運営課題を解決する方策を立て実践し、事業の効果が高まった。	15区の中で、2地区実施できていないので、実施に向け支援が必要である。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学力向上推進事業 石狩市中学生交流 (紀彦)  No.1-2	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※隔年ごとに派遣、受入れで実施する。	石狩市と早目に連絡を取り合い、より良い交流事業を展開できるように調整する。	石狩市と早めの事務調整を行い、より良い交流事業になるよう企画した。	沖縄または恩納村でしか体験できない事業内容、また民泊受入家庭の協力もあり良い交流体験ができた。	石狩市と早めに連絡を取り合い、より良い交流事業を展開出来るよう調整する。	B	①現状の内容で継続  講演会 (評価：A)  未来塾 (一部事業を拡大して継続)
講演会 (宜志富)  No.1-3	教職員や保護者の資質の向上に資することを目的として著名人を招き、講演会を開催する。	保護者や地域のニーズ調査を行い、講演会の内容を検討する。	参加者の増をねらい、学びをたしかめつなく集いの講師に興南学園「我喜屋優」氏を招聘した。	講師招聘に工夫を凝らした結果、講演会への保護者や地域の参加者が増加した。	今後も、保護者や地域のニーズ調査を行い、聴講者が望む講演会の実施を検討する。		
県外先進地視察研修(宜志富・永川)  No.1-4	学習内容の定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	秋田県やその他の県外教育機関との関係を継続する。	教育委員会事務局2人で秋田県の教育委員会及び公立の小中学校の学校体制及び授業を視察した。	秋田県からの講師を招聘し、2年連続で村内5校で模範授業及び村内の算数・数学の授業づくりに対して支援を行い、教師の授業力が向上した。	秋田県やその他の県外教育機関との関係を継続する。		
学推実践報告会 (宜志富・永川)  No.1-5	恩納村学力向上推進の取り組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する。	公民館と連携し、各地区へ参加割当人数を設定し、地域の方々の参加増員を図る。	学校及び各区への参加割り当てを示し、参加者の増加を図った。	例年より保護者の参加者が大幅に増えた。	公民館や学校との連携を継続し、参加者の増加を今後も図る必要がある。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
諸検定料支援 (宮里) No.1-6	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力の意識化と定着を図る。	上位級の合格率が低いため、安易な受験にならないよう指導を促す必要がある	学校等において、過去問題で実力を養成し、合格圏内に達する級への挑戦をさせる。	受験者が増え、また、上位入賞者も増えている。 受験者数(H26) 英検:339名(368名) 漢検:679名(651名) 数検:184名(191名) 理検:27名(15名) 合格率 小学校 72% 中学校 35% 全体 52%	村内に在住おり私立等に通う児童生徒にも助成の範囲を拡大していく必要がある。		
未来塾 (宜志富) No.1-7	高校受験を控えた中学校3年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	学習ボランティアに対する事前研修の実施や今後の課題について検証する必要がある。	指導内容の平均化を図るため、受講生と全員に問題集(2種類)を配布する。	教材を統一した結果、5校において、共通の取り組みがなされ、学力向上に結びついた。	生徒からの塾開始の時期を早めてほしいとの要望があるので、開始時期の検討が必要である。		
スキルアップ研修 (永川) No.1-8	各学年・教科1人体制という課題を解決するため、村内職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。	授業時数に欠けず、スキルアップ研修会の実施について検討が必要である。	全体会(第1・4回)の開始時間を遅くし、第2・3回は、夏休みに実施し、欠けずに行う。	授業の欠けずがでるというような相談はなかったため、改善されてきている。	部会によっては、スキルアップ研修会の充実に差があり、改善が必要である。		
各種コンクール (宜志富・永川) No.1-9	各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。	受賞作品の掲示に工夫を加えつつ、広報活動を充実させる。	作品募集に関して、村の定例校長会及び教頭会で周知を図る。	広報の充実により、コンクールへ出展する児童生徒の数が増えた。	各種コンクールの結果を村の広報に掲載するなど、広報活動の更なる充実が必要である。		

(5) 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館運営 (後藤)  No.1	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会を通して、ふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化情報センターや関係機関と連携しながら、展示会・講座などの企画をとおした来館者・リピーターの獲得に努める。</li> <li>・サークル活動の支援などを継続し、村民の博物館利用を促進する。</li> <li>・授業の受け入れや出張講座等を行い学校の利用促進。</li> </ul> 以上の項目に努め、目標人数の達成に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館運営協議会については、年3回開催し、博物館活動についての意見をいただいた。多様な内容の展示会や講座を企画し、開催した。</li> <li>・サークルの活動支援（発表会開催の支援）等で村民の施設利用の増加を図った。</li> <li>・学校授業の受入では人数や時間に合わせ、解説や民具に触れる時間を設けるなど、工夫を行った。また、教職員の研修の講師を引き受けるなどした。</li> </ul>	博物館利用人数 14,957名。(前年度 8,464名) 内訳 入館者 12,439名(前年度 5,755名) 施設利用者 2,518名(前年度 2,709名)  ・文化情報センターとの通路での連結や共同での事業周知、入館料無料化の効果もあり、前年度比2倍以上の入館者があり、多くの方に展示会を見てもらうことが出来た。 また、読み聞かせサークルの自主発表会の開催等、村民による博物館の利用の促進につながった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○増加した博物館利用者を維持していけるよう、引き続き文化情報センターや関係機関と連携しながら、展示会・講座などの企画をとおした来館者・リピーターの獲得に努める。</li> <li>○開館から15年を迎えるのにあたり、不具合が目立つ施設設備の更新や改修を行いながら、博物館利用者が利用しやすい施設を目指す。</li> </ul>	S	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	今後の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
企画展・展示会 (後藤)  No.2		○継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めるとともに、事業の見直しなどを行いながら、より魅力的な展示会を開催していく。また、広く村民に公開・活用できるよう、村内の他施設を利用した移動展にも取り組んでいく。	①「古地図と写真からたどる恩納村」 文化情報センターの開館に合わせ、博物館所蔵する古地図や村の昔の風景が写っている写真パネルを活用した展示会を開催した。 ②慰霊の日特別展「沖縄戦 70 年目の記憶～語り継がれる恩納村(うんな)のイクサユー」 沖縄戦から 70 年を迎えるにあたり、村民の沖縄戦の体験証言などを元に展示会を開催した。 ③「うんな工芸展 2015」 村内の陶芸、琉球ガラス工芸、漆工芸作家の作品展。 ④企画展「恩納村の地形と地質」 平成 26 年 3 月に刊行された『恩納村誌第 1 巻 自然編』にて報告された調査成果を広く村民に公開することを目的	①「古地図と写真からたどる恩納村」 4/21～5/17 に開催(20 日間)。期間中の来場者 1,083 名。 ②慰霊の日特別展「沖縄戦 70 年目の記憶～語り継がれる恩納村(うんな)のイクサユー」 6/13～6/28 に開催(13 日間)。期間中の来場者 852 名。 ③「うんな工芸展 2015」 7/7～7/20 に開催(13 日間)。期間中の来場者 634 名。 ④企画展「恩納村の地形と地質」 7/28～9/27 に開催(53 日間)。期間中の来場者 2,262 名。	○継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めるとともに、事業の見直しなどを行いながら、より魅力的な展示会を開催していく。また、広く村民に公開・活用できるよう、村内の他施設を利用した移動展にも取り組んでいく。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	今後の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
	博物館が所蔵する資料や文化財などの資料の活用のほか、地域と連携しながら、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化に対する理解を深めてもらう場とする。		として開催した。今回は第一弾として、地形・地質について取り扱った。  ⑤県芸祭写真選抜展 県との共催事業。開催期間を昨年昨年並みに確保し開催。	⑤県芸祭写真選抜展 12/8～12/20 に開催（12日間）。期間中の来場者371名。			
博物館講座 (親泊)  No.3	博物館主催の講座を通して、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	恩納村の特色を活かした講座のメニューを企画し、より多くの村民に参加してもらえるよう取り組んでいく。	①展示解説会「恩納村の地形と地質」 当初は自然観察会の開催を予定していたが、天候不良のため、観察会を延期し、展示室での解説会を行った。  ②自然観察会「見て、触って学ぶ恩納村の地形と地質」 企画展「地形と地質」の関連講座として開催。展示会の監修者に講師を依頼し、村内の地形・地質についての観察会を実施した。	①展示解説会「恩納村の地形と地質」 8/1 開催。参加者 17 名。参加者は展示物を見ながら、理解を深めることが出来た  ②自然観察会「見て、触って学ぶ恩納村の地形と地質」 8/30 に開催。参加者 17 名。(募集定員 15 名) 1 日かけて村内の地形や岩石を見て回ることで、理解を深める機会となった。	恩納村の特色を活かした講座のメニューを企画し、より多くの村民に参加してもらえるよう取り組んでいく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	今後の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
			<p>③パーキ作り 新規受講者を募集し、材料の加工～製作までの一連の作業を行う竹かご作りの講座を実施した。また、過去の受講者にも参加を呼びかけ、技術習熟を図る機会とした。</p> <p>④写真選抜展作品講評会 県芸祭写真選抜展の作品講評会を開催</p>	<p>③パーキ作り 11/28,29に開催。参加者15名（うち、新規受講者9名、経験者6名）。※募集定員15名。材料となる竹の自生地についても村民から情報を得ることが出来た。</p> <p>④写真選抜展作品講評会 12/13に開催。参加者25名</p>			
サンセットコンサート (親泊) No.4	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	村内の人材などを活用しながら、村民が気軽に来場できる企画を開催し、継続して文化活動の向上に貢献していく。	前年度のアンケート結果を踏まえ、弦楽四重奏（ヴァイオリンなど）のコンサートを企画。県内でも高い技術を有する「琉球交響楽団」のメンバーに出演を依頼し、質の高いコンサートを提供できるよう取り組んだ。	H28年3月27日(日)に開催。来場者110名(前年度延べ200名) 日頃あまり聴く機会のない弦楽四重奏の演奏と博物館からの夕暮れ時のロケーションの相性が非常によく、会場で実施したアンケートでも大変好評をいただいた。	博物館の立地を活かしながら、村民が気軽に来場できる企画を開催し、質の高い芸術に触れる機会を提供することで、継続して文化活動の向上に貢献していく。 また、可能であれば、村内の人材なども活用していきたい。	S	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
『恩納村博物館紀要』(第9号)の刊行 No.5	博物館のこれまでの活動に関する情報をまとめることで、今後の活動や方針を決定する際の指標とすることができる。また、将来的な資料作成も兼ねる。博物館年報と隔年にて作成している。	今後も継続し、村や博物館活動に関する調査研究・報告に努める。	第9号の刊行に向け、恩納村文化財保護審議員や元恩納村誌自然編調査員に原稿の執筆を依頼したほか、博物館職員も紙面上の報告を行うこととした。	『恩納村博物館紀要』第9号を刊行した。村の野鳥やカメムシ類に関する報告や博物館の展示会開催に関する報告を掲載した。	今後も恩納村博物館関係者からの原稿の募集に努め、村に関する調査・研究の情報発信を行っていく。	A	①現状の内容で継続
歴史ロードを歩こう事業(親泊) No.6	恩納村内に所在する国指定史跡「国頭方西海道」やその一帯に所在する恩納村の財産である文化財を見て、聞いて、触れることで文化財愛護思想の啓発を図った	引き続き、参加者の安全管理に配慮するとともに案内方法の検討を実施する。	適切な安全管理を目標に声掛けや、道路付近の誘導、歩行時の呼びかけや滑りやすい箇所等に注意表示や職員を配置した。案内方法ではガイドの道の会の地元会員の方も含め案内していただいた。	5月9日に実施。参加者50名。次回も参加したいという意見が多く寄せられた。 前年度(H26)参加者： <b>53名</b>	引き続き、参加者の安全管理に配慮するとともに案内方法の検討を実施する。 参加目標：50名	A	①現状の内容で継続
文化財めぐり事業(親泊) No.7	親子で文化財めぐりを行うことにより、歴史や文化財への認識を高め、文化財保護の啓発を図る。	村内の文化財めぐりで各集落の文化財めぐりを計画する。	村内の文化財めぐりを実施。山田、仲泊、恩納地区の国指定や村指定文化財など地域の文化財めぐりを道の会の方を講師に実施。 ・対象を親子に限定せず事業を実施した。	3月26日に実施。村内の一般を含めた15名が参加。国指定史跡山田城跡や仲泊遺跡、地域の文化財について学習する機会となった。 前年度(H26)参加者： <b>22名</b>	参加者の増加を図り、広報活動や開催時期について検討する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
文化財普及事業 文化財展示会 No.8	村内の文化財の周知と普及を図るため文化財普及展示会を実施し、文化財保護の啓発を図る。 目標見学者：600名	村内の文化財普及を図るために展示会を継続してできるよう検討する	① 山田城跡展 護佐丸縁の山田グスクを紹介及び活用した展示会を開催 ② やんばるの沖縄戦 国頭地区文化財行政連絡協議会の巡回展。やんばる地域の戦争遺跡の周知及び活用を図る。	(ア) 山田城跡展 10月6日～11月23日 見学者：1682名 (イ) やんばるの沖縄戦 In 恩納村 12月1日～12月20日 見学者：796名	今後も恩納村の文化財の普及を図るため展示会を継続してできるよう検討する。	A	①現状の内容で継続
恩納村文化財保護審議会(親泊) No.9	村内に所在する文化財の保護と活用について審議会を実施し、村内の文化財保護に努める。	村指定文化財の増加を図るため、具体的な審議会の実施に取り組む。	村内の指定文化財の増加を図るため、文化財保護審議委員から意見を聴取し、指定に向けて文化財候補の審議を実施。	平成27年度は年2回の審議会を実施。 審議会では、文化財指定についての協議及び国頭方西海道災害復旧の審議、万座毛周辺整備事業や平成27年度事業報告等を行った。	村指定候補の4件の文化財について、具体的な審議を実施し、村指定の増加を図る。	B	①現状の内容で継続
恩納村文化財指定業務(崎原) No.10	村内に所在する貴重な文化財の中から村指定候補を調査、検討し村指定文化財の増加を図る。			恩納村の印部石(6個)や恩納間切図等(地図66枚)、南恩納の龕(1点)の調査、専門家の先生等より聞き取りを実施した。また、村文化財保護審議会で審議にかけた。	村指定文化財の増加を図り、公開・活用を図りたい。	A	①現状の内容で継続
万座毛保存管理計画策定事業(崎原) No.11	沖縄県名勝、天然記念物の指定範囲である万座毛の保護・活用を行うため保存管理計画策定事業を実施。 27年度～29年度事業			平成27年度は、沖縄県、関係各課と調整し、委員会を立ち上げ、会議を1回実施。保存管理計画事業に伴う万座毛の調査も併せて開始した。	万座毛の文化財的価値などの調査を実施し、委員会の意見を取り入れ保存管理計画書の作成に向けて取り組む。	B	①現状の内容で継続

(6) 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
栄養教室の開催 (比嘉)  No.1	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。	年間指導計画に則り授業を行うように努める。各学校への巡回指導の充実を図る。(村内各校における授業への参画及び講話等の開催)	食に関する年間指導計画を作成し各学校への周知を図り、各学校で給食時間を利用し栄養指導を行った。授業への参加及び講話を行った。(各幼稚園、小1、お箸の正しい持ち方指導。 安富祖、喜瀬武原校小1～中3各学年 恩納校低学年対象に食育事業開催)	子供たちが食に対する関心を持ち、栄養に関する知識を学んだ。正しいお箸の持ち方への意識づけができた。	年間指導計画に則り授業を行うように努める。各学校への巡回指導の充実を図る。村内各校における授業への参画及び講話等の開催の継続。	B	①現状の内容で継続
村産食材の積極的な活用(比嘉)  No.2	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	村産食材の物資選定や安定供給ができるように農水関係者との連携を図る。	日頃の食材調達をおんなの駅と連絡調整を行い、年間を通して、地場産物を利用した。また「ふれあい給食」年間行事として実施した。JAより安富祖米を購入し地産地消の推進を図った。	地場産物を学校給食を通して、子供たちに提供し、食材をつくらせている農家さんとの「ふれあい給食」を実施することで、地元産の食材への関心が深まった。	村産食材の物資選定や安定供給ができるように農水関係者との連携を図る。	B	①現状の内容で継続
給食センター見学の推進(比嘉)  No.3	給食調理の状況を見学させ、その安全性を認識させる。	給食ができるまでの過程を理解させるため、園児児童生徒の調理場見学の実施を図る。	幼稚園児の調理場見学に向けた事前調整と実施。小中学校の行事調整を行った。	幼稚園児の調理場見学を実施し、給食に対する関心を高めた。	小中学校への見学実施にむけた行事調整。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
給食費徴収率の向上(比嘉)  No.4	安全で質の高い給食の提供するため、給食費の徴収率の向上を図る。	口座振替を推奨していくことと、滞納者に対しては、児童手当の天引き制度を推奨し、期限内納付の周知を図る。	口座振替納付を推奨するため、入園・入学オリエンテーションや村広報掲載等で周知を行った。滞納者に対し、電話督促や督促状発送を行った。児童手当の天引き制度を利用し徴収を行った。県内各金融機関での窓口収納、コンビニ収納サービスにむけての事務調整、申請を行った。	口座振替利用率が前年度44%から55%へ増加した。	口座振替を推奨していくことと、滞納者に対しては、児童手当の天引き制度を推奨し、期限内納付の周知を図る。長期滞納者への督促の強化。	B	①現状の内容で継続

#### 4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成委員及び意見の内容は次のとおりです。

##### (1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会

役職	氏名	任期	備考
委員長	仲本政夫	平成28年8月1日～当該事務事業年度完了まで	元教育委員・元中学校教諭
副委員長	真栄城慶子	平成28年8月1日～当該事務事業年度完了まで	元村子供育成会会長
委員	津波古真一	平成28年7月21日～当該事務事業年度完了まで	元PTA会長・社会福祉法人恩納村社会福祉協議会事務局長

##### (2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、平成28年7月26日、8月9日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受けながら評価を行いました。また8月23日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行い、その結果を答申いたします。

#### 記

##### ① 点検評価報告書について

今回の教育委員会の事務事業の点検及び評価は、事務事業評価シートにより事業目標、事業の成果、今後の課題、事務事業の評価について、課長及び事業担当者からのヒヤリングを行い事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等が適切であるかを確認しました。また、恩納村全体の生涯教育を考え、学校教育、社会教育関係事業について、生涯教育の視点から事務事業の点検及び評価を行いました。7年目ということでこれまで、いくつかの課題も指摘されてきております

が、点検項目並びに事業内容、取組み結果及び課題についても、わかり易く丁寧にまとめられ、担当者が熱心に取り組んだことが伺え、過去に指摘されていた記載内容及び方法が適切に改善されていました。

事務事業の点検及び評価は、事業の計画、実施、検討を行う職員自らが事業への意識を高め、事務事業への村民の満足度の向上や期待への適合などを視野に入れるとともに説明責任への意識を持つことが大変重要であると感じました。成果の見えにくいといわれる教育行政について、P D C Aサイクルに沿って事業展開ができるよう常に点検や評価を繰り返すことが重要だということが確認できました。

この評価結果の活用につきましては、次年度以降の事業の取組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、取り入れていただきたいと思えます。

## ② 事務事業の評価について

今回は、事業の集約評価を実施した結果、事業評価数が62件となり、事務事業の内部評価を点検しました。前年度に比べ事業評価数は、減少したものの実質事業数は、前年度並みとなっております。取組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価は概ね妥当だと理解します。また、内容が類似している事業においては、集約されているが、今後の事務事業報告書の作成の際は、更に関連する類似事業の集約及び簡素化するよう改善していただきたい。

また、各事業の実施の際、対象者への事業の効率的な周知のあり方について再検討し、事業効果が上がるよう対策を講じていただきたい。

なお、外部評価をしていく中で、委員から多様な意見提言がありましたので、主なものを列記します。

学校教育関連所管事業においては、教頭会での学習会の実施、教育相談員の学校への派遣、子ども議会の開催年の検討、奨学資金貸与事業の適正運営及び給付型奨学金制度の設立、I C T教育機器の活用、小中学校施設整備の充実、恩納村立中学校統合の推進等を継続して充実させ、今年度の事務事業の進捗状況は、成果として評価します。

社会教育関連所管事業においては、国際交流派遣事業の充実、各講座受講者への周知及び事業のニーズ調査を充実させ、文化情報センター業務は、予想以上の来館者への貸し出しがあり、S評価としました。

社会体育関係所管事業においては、5事業を集約し、1事業として評価を行い、各種社会体育事業が充実していることを確認しましたが、一部の事業で周知活動が弱く、今後の周知及び広報活動の充実へ期待し、成果として評価します。

学力向上推進委員会事業においては、各事業とも学力向上の要因と理解しており、今後も継続して事業を実施していただきたい。また、地域塾及び未来塾は規模、期間及び時期等を検討し、引き続きを学力向上の推進を図っていただきたい。

博物館所管事業においては、文化情報センターの開館及び入館料の無料化に伴い、入館者が倍増していることから大きな成果として評価します。今後は、新しいイベントやサークル活動を支援し、企画の工夫等で入館者の増を期待し、S評価とさせていただきます。

学校給食センター所管事業においては、栄養教室の開催、村産食材の積極的な活用、給食センター見学の推進、給食費徴収率の向上の各事業は、概ね事業目標を達成されたと理解しますが、村産食材に「安富祖米」や「モズク」が使用されているものの「アーサ」の使用がされていないので村漁業組合と調整し、学校給食で提供していただきたい。給食費の徴収率向上は、私会計から一般会計へ移行し、園児及び児童生徒への安定供給は、順調に実施できたものの徴収率の向上が達成されていないので、引き続き長期滞納者への督促の強化及び準要保護世帯への制度申請の周知、要綱改正等も検討し、給食費の確保を図っていただきたい。

今後も関係機関と連携を密にし、積極的に村産食材の活用に取り組んでいただきたいと思えます。その他、個別の事業について、審査の過程で多種多様な指摘や提言がありましたがその全てを列記することは省略し、資料として会議録を添付いたしますので今後の事業展開の参考に供していただければ幸いです。

### ③ まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないシステムであるため、外部評価委員の意見が即効性をもって反映されるように、事業途中で行う中間的評価を取り入れることにより、実施中の事業であっても途中で区切りをつけて評価し、より実効性のある点検及び評価とするためにも一度立ち止まっての点検も必要ではないかと思えます。

事務事業の点検及び評価をすることにより、成果を確認するとともに、課題を見つけた場合は、次年度はその課題解決を事業目標に掲げ解決に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことが低評価の事業を継続していくことを防ぎ、効率的な事業推進につながります。その結果が次年度以降の教育目標や事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善等に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、村民ニーズに合った高い事業目標を調査及び研究し、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村教育の更なる振興につながります。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

### ④ 結びに

今回の点検評価は教育委員会にとって7回目ということで、このシステムについても各担当者に浸透し、人事異動後の担当者への事務引継もスムーズに行われており、今後ともなお一層村民によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思えます。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善や効果的な実施と内容の充実に努めてまいります。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成28年9月

恩納村教育委員会